

第6回 昭島市まちづくり委員会 議事要旨

日 時：令和3年3月9日（火）午後5時30分～7時00分
会 場：市役所2階204号室（Web会議）

【出席委員】

柳沢厚委員長、細谷訓之副委員長、紅林由紀子委員、杉田一男委員、鈴木一昭委員、谷部英治委員、荒井和誠委員、岩佐昌明委員、於保美幸委員、立川慎一委員、中尾一博委員、安部隆士委員

【欠席委員】

砂金朋子委員、小田部恵委員

【事務局】

都市計画部長 後藤真紀子、都市計画課長 岩波聰
都市計画係 小林千春、鈴木雄樹、荒井哲朗
(株)オフィス・コラボ 樋渡、中井

【事前配布資料】

- 都市計画マスタープラン（原案）に係るパブリックコメント実施結果（資料1）
- 都市計画マスタープラン（案）（資料2）
- 変更点一覧（資料3）

【当日配布資料】

- 議事次第

【傍聴者】

なし

1. 開会

事務局：事前配布及び当日配布資料の確認が行われた。

2. 議題

（1）パブリックコメント実施結果について

事務局より資料1を説明。

意見なし。

（2）都市計画マスタープラン（案）について

事務局より資料2を説明。

○委員長

皆さんから、感想や今後の実施段階の希望、修正点を述べていただきたい。

○紅林委員

全体としては資料編やデザインが入ることにより、すっきりとして見やすくなった。

9ページ【課題】「自然環境に係るアダプト活動など、市民との協働による保全活動・・・」と修

正したことにより、アダプト活動について清掃のイメージが強調されているように感じる。

14 ページ【課題】の修正においても、「ボランティア活動」、「水辺」といった文言が削除され「公園・緑地の良好な環境保全にあたっては、アダプト活動など・・・」と修正したことで、清掃のイメージが強く感じられる。

昭島市は市民団体が水辺の楽校で環境の学習を行っている。このような教育活動を市民レベルから増やすことにより、清掃活動だけでなく、環境への理解や大切さを学んでいく気持ちを育てていくことが大事である。「アダプト活動など」でまとめてしまうのはいかがだろうか。

○事務局

アダプト活動は清掃だけでなく、花植えなども含まれる。団体として大きな組織がアダプト団体であり、それ以外では水辺の環境を守る団体やホタルを守る会など様々な団体がある。代表して「アダプト団体」を記載している。9 ページ【課題】「自然環境に係るアダプト活動など、市民との協働による保全活動について、活動の活性化に向けた人材育成などの取組が今後必要となっています。」にある通り、活動に取り組む人を育てる取組が大事であると考えている。

○委員長

アダプト活動の文言にもう少し多様性のあるイメージを持てるよう、例示を入れるなどの検討を事務局にはお願いしたい。

○紅林委員

市民との協働の保全活動という広い意味を含めるということで理解した。33 ページ方針 4 「水と緑のまちづくりの方針」の環境学習やレクリエーションの場づくり、緑地空間の保全といった文章に繋がるように、もう少し膨らませて記載できれば良いと考えた。

○杉田委員

読みやすい都市計画マスタープランができたと考えている。前回の改定にも携わったが、今回の都市計画マスタープランはより読みやすいものになっていると思う。

○鈴木委員

都市計画マスタープランの最初に全体構成、目次とつながり見やすくなった。

35 ページの方針 2 ①iii) 「安全な歩行・自転車空間の整備」の文中にある「無電柱化や電柱の移設により、歩行空間の確保を図ります。」について、現時点では無電柱化になっている駅前が拝島駅南口と中神駅北口のみとなっている。市の中心である昭島駅周辺がまだ未整備である。商業面では歩行空間がゆったりして、景観的に拝島駅南口のようになると良い。20 年先を見越している計画であるが、駅前を中心とした無電柱化によるインフラ整備を進めてほしい。

○委員長

都市計画マスタープラン実施の段階で、考慮していただきたい。

○谷部委員

41 ページの方針 4 ③iv) 「農地の保全と活用」について、援農ボランティアが追加されたが、ボランティアは補助的な部分が大きい。実際の農作業は家族の方が助かるという声もある。一方で、10 年前に実施された市民アンケートでは約 12% 弱の市民が「農作業に参加したい」という結果がある。高齢化に伴う後継者不足の対策として、維持管理のために農作業の受託システムの組織育成や、ある程度の金額で農作業を手助けできるようなシステムがあるとよい。

また、特定生産緑地の申請者に対して、補助なども含め農業を持続して良かったと思えるような支援があるとよい。

近年は女性の農業者も増えており、農地を緑地として保全していくために市民を応援していただきたい。

○委員長

農地の記述は少ないが、都市部の農業関係はコミュニケーションの一つのコアになりうる面白い素材である。よく農業部局と連携して進めていただきたい。

○荒井委員

都市計画マスタープランは良くまとまっている。この計画を推進していくことが昭島市のまちづくりを良くすると思う。

5ページの計画目標年次に「2040年代を目標年次とします。」とあるが、現在のコロナ禍のような状況もあるので、適宜見直しが必要だと考えている。政治的には脱炭素の施策、東京都ではゼロエミッションの取組もあるので、時代背景に対応しながら進めていただきたい。8ページの4)生活圏の広がりについても、在宅勤務の増加で従来の通勤の形が変わってくると思うので、現状にあつた施策を行ってほしい。

○岩佐委員

都市計画マスタープランは写真やコラムが加わり、見やすい形となった。

4ページのコラム「集約化の地域構造のイメージ」という東京都の図を使用しており、市のコンパクト化が求められるとあるが、都市計画マスタープランにおいて具体的な施策等があればご紹介いただきたい。

○事務局

コンパクト化について、昭島市はもともとコンパクトなので、どのようにコンパクト化を図るかを考えたときに、機能的にコンパクト化していくことが考えられる。市の各地に散らばっている施設の機能を集約化して、より効率的な運営を図っていきたい。立地適正化計画の策定までは考えていない。人口減少社会に対応するため、拠点性を高めた施設の配置等を考えて、地域特性を生かした集約的な市街地づくりを進めていく。

○安部委員

都市計画マスタープランはよくできている。

3ページの1) 人口減少・超高齢化社会の到来の中で「若い世代が住みたくなるまちづくりを進めることができます。」とあるが、計画のどのあたりに記載があるのか。

○事務局

例えば、水と緑のまちづくりを進めていく中で、家族などが親しみを持てるまちをつくっていく。「歩いて楽しいまち」となれば、若い人が住みたいまちにつながる。さらに、仕事と住居が接近したまちづくりを進めていくことを考えている。

○於保委員

都市計画マスタープランのデザインの部分は柔らかい印象に修正していただいた。

「歩いて楽しいまち」については、コロナ禍で生活様式が変わっているので、歩くことがより重要となってきている。子どもを含めて「歩いて楽しいまち」を一番大きく取り上げていただきたい。

歩くことは健康面や精神面において重要になる。しかし、歩道に起伏があるため、健常者だけでなく、電動車椅子や杖を利用している方に危険な面があるので、無電柱化を積極的に推進していただきたい。

35ページについては、自転車と歩行者を分けて記載することが大事だと思う。

緑は非常に大切だと考えており、昭島市は緑が多い。18ページの想像「帰郷2040」に「フラワーポット」という表現があるが、プランターのイメージが強い。道と建物が区切りなく、自然で緑豊かなまちづくりを今後進めていただきたい。

27ページの玉川上水の写真は緑豊かな写真であると良い。また、同ページの水と緑の骨格図は市の横軸だけなので、縦軸の歩けるラインを再考していただきたい。

以前も申し上げたが、まちづくりに色彩の美しさを入れていただきたいと考えており、20ページの目標「魅力的で楽しさがある利便性の高いまち」に「自然の色彩と調和した都市景観・・・」があるが、『利便性』の前に、『美しい』の言葉があると次に展開しやすいと思う。

15ページ、17ページとハコモノの写真が続くが、環境に配慮されたような写真になると良い。アキシマエンシスも図書館の吹抜などの写真になると良い。

デザイン的な部分で11ページのグラフの「集合住宅」の色と13ページのグラフの木造やコンクリート造の「住宅の構造」の色がリンクすると見やすくなる。

○事務局

「歩いて楽しいまち」を36ページのコラムで歩くまちづくりの図を追加して縦軸のコースもお示ししております、今後も展開していきたい。

水と緑の骨格は地形の部分なので、横軸となってしまうのはご理解いただきたい。

○立川委員

都市計画マスタープランは全体的に良くなつた。

都市計画は住みやすさや快適性を進めることにより経済効果を上げるまちづくりにつながっていく。

内容については、4ページのコラム「集約化の地域構造のイメージ」の図の凡例が小さく見づらいので、5ページの空欄スペースに移して図を大きくするとよいのではないか。コンパクトなまちづくりについての表記としては、この図が分かりやすいので、可能であればレイアウトの変更をしていただきたい。

22ページの①中心拠点（昭島駅周辺）に「にぎわいと回遊性のある拠点」とあり、32ページの方針2の2）「駅周辺においては、多くの人が行き来する空間として・・・」という文章中の「行き来」の文言を工夫してほしいと考えている。「南北の回遊性、歩行者空間の確保、交通の移動」などいくつかの要素を入れてほしい。都市計画マスタープランなので、基盤を動かすイメージになればよい。

昭島市は経済や環境面において、土日には交通渋滞による排気ガスが多く、決して良い状況ではない。もう一步踏み込んだ市としての対策、民間や鉄道会社と協力していく対策があればよい。

63ページの②課題ⅲ）「JR青梅線踏切を中心とする道路渋滞の解消に向け、整備を検討する必要があります。」とあるので、南北の回遊性を高めるための工夫があると良い。例えば、鉄道を高架化すること。高架下のにぎわいのある新しい魅力づくりをしていく努力は市民や行政にとって良いこと。都市計画道路を新しく作る場合は用地買収等による市の負担が課題としてあるが、国費を入れた高架事業の場合は市の負担が莫大に掛かるわけではないので、都市計画マスタープランには高架事業のような夢の部分を入れていただきたい。

○事務局

鉄道の「高架化」は市でも検討し、また、東京都の状況も確認した中で、この先20年での実現は難しいということで、「高架化」の文言は記載していない。交通渋滞の課題を解消するために、市としての対策を検討していく。

4ページのコラムのレイアウトについても検討する。

○中尾委員

都市計画マスタープランは良いと思う。内容に「Made in 昭島」があるとまちも元気になるので、メッセージのような文章があると良いと思う。74ページの第V章「マスタープランの実現に向けて」のように、色々な環境の変化に対応できる有効な方向性を見出し、どのように計画を進めていくかが重要であると考える。

○細谷副委員長

「はじめに」の記載がない。

章立てについて、32ページと34ページのカッコ表記を統一した方が良い。

○事務局

「はじめに」は市長のあいさつを今後記載する予定。32ページから42ページまでの章立ての表記については、統一していく。

○細谷副委員長

感想は人を大切にした都市計画マスタープランとなった印象で、計画策定を楽しめた。

74ページの第V章「マスタープランの実現に向けて」の取組が重要になってくると思う。まちづくりを自分のものとして考えていくことが重要であり、市役所の中の一つの部課だけではなく、市全体でまちづくりを行っていく仕組みをもった実行性のある取組となるとよい。

検討していただきたい点は、委員長が毎回会議で良い話をされるので、計画書の最後にコラムとして入れれば良いと思う。

○紅林委員

3ページの1)の「若い世代が住みたくなるまちづくり」について、教育委員会では小中学生の「子どもの主張意見文コンクール」を毎年開催している。この中で環境分野ではCO₂問題、道路交通の分野では、歩行者が安全に歩けるようにするなど、まちづくりについての意見がある。安全を確保することで、自転車の利用が増えれば、車が減りCO₂削減につながるといった意見もある。まちづくりについて市民が要望を出すことで、幸せな町になっていくという意見もあった。これからを担う小中学生の意見を取り入れてまちづくりに活かしていくべきだ。

○中尾委員

第IV章「地域別まちづくりの基本方針」について、地域別でまとめる狙いを教えてほしい。

○事務局

43ページのとおり、市では青梅線が南北を分けており、それぞれの地域では買い物等を含む生活圏がある。地域によっては飛行機の航路や河川など環境の違いがある。そのため、市を一括りと考えるのではなく、地域別にまちづくりを考えたものである。

○事務局

都市計画運用指針において、都市計画マスタープランの構成は全体構想と併せて地域別構想を定めることが望ましいとされており、地域区分の考え方も運用指針に沿ったものである。

○谷部委員

「Made in 昭島」ということで「拝島ネギ」がある。昭島のオリジナルの江戸東京野菜なので宣伝してほしい。

○於保委員

今回のまちづくり委員会で計画策定の会議は最後になるが、まちづくりの場にもっと関わりたい

ので、柳沢先生を講師にしたワークショップなど、若い人とともに、まちづくりに取り組んでもらえたら良い。

○事務局

計画は作って終わりではなく、どのように展開していくのかが重要であると考えている。都市計画は難しく捉えられがちなので、自分たちが関わる事として考えていただくために、ハードルを低くして参加してもらう。例えば、イベント会場で家や川、山などのブロックでまちを作る作業を通して、人によってまちの捉え方が違うといった認識をしてもらうなど、若い職員の声も聞きながら進めていきたい。

○於保委員

緑が美しくみえる外壁についてのワークショップも提案できるので、今後のまちづくりに活かしていけると良い。

○委員長

本日の意見については、事務局と検討して計画へ反映していきたい。

今回 Web 会議を開催したが、発言が聞きとりやすかった。

都市計画マスタープランの内容ではコラムが入ったのが非常に良く、強調点となっている。

都市計画マスタープランとしてやむを得ない面はあるが、それぞれの分野ごとに方針が書かれており、地域別に記載していくと、まちとしてどのようなことを目指すのかが見えにくくなる。そこを明確にするのが「将来像」ということになる。

都市計画マスタープランによる今後のまちづくりについて、どのように価値を高めていくのかが大事である。価値を高めるために目指すまちの姿が重要となる。やるべきことがたくさんある中で最も大切なことは質を上げることである。質を上げるために物的環境と人的環境の二つが考えられる。人的環境は都市計画では手がつけにくいが、人的環境が上手く動くような物的環境をつくることが都市計画マスタープランの役目であり、コミュニティの刺激や充実につながっていく。つながる事で昭島市が将来様々な人に“良いまちだ”とか“住んでみたい”と思われる状況をつくっていきことができる。この計画をもって目指す目標を共有できればよい。18 ページのコラムもそういう主旨だと思う。

○事務局

いただいた意見の反映を検討していきたい。この先の流れとして、今月末の都市計画審議会に諮問して決定する。印刷は来年度になるが、完成後は委員の皆様に送付する。

3. 閉会

以上